

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集されたものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- 「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- とくに、プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- 「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムもそれをはるかに上回る数の科目を提供しており、みなさんがその専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- 各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- 「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- リベラルアーツ学群には32のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成されたものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが Independent Learner として、自分の関心と視点に立って独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、などさまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

リベラルアーツ学群教員一同

多文化共生プログラム

履修のしかた

多文化共生は、民族・宗教・ジェンダーなど、多様な文化的背景を持つ人々が互いを理解し、違いを越えて共に生きていくための理論と実践を学ぶプログラムです。

このプログラムは、以下の4つのカテゴリで構成されています。

1. 概念の理解
2. 多様性への理解
3. 法とグローバリゼーション
4. 実践・演習

これらのカテゴリに属する科目を履修することで、多文化共生に関する課題を多角的に学ぶことができます。

1 年次には、ことば・宗教・心理に関わる科目(例:「日本の宗教・世界の宗教」「多文化共生とやさしい日本語」「生涯発達心理学」)や、「実践基礎科目」である地域サービスラーニング科目や海外サービスラーニング科目をとるとよいでしょう。('対人援助コミュニケーション')は、地域サービスラーニングの履修が先修条件となっています。)

2 年次は、メジャーの学生は、早い段階で必修の「多文化社会論」を履修し、日本社会における移民の歴史や、世界における多文化社会の思想や動向について掘みましょう。さらに社会における多様性理解を深めるためには、地域社会の多様性を扱う「地域社会学 A」や、日本と海外の比較を扱う「比較社会学 A」の履修をお勧めします。文化や宗教における集団が、いかに階層、世代、ジェンダーなどと複雑に交差しているかを学ぶために「多文化共生の人類学」を履修するとよいでしょう。

3 年次は、メジャーの学生は、必修の「多文化共生とコミュニケーション」を履修し、多文化共生や異文化接触に関する理論を理解し、よりよい関係構築のためのソーシャルスキルを身につけます。また、法とグローバリゼーションの理解を深めるために、「移民法」の履修も重要です。

また、「実践・演習」カテゴリでは、「多言語交流演習」「対人援助コミュニケーション」「国際協力フィールドワーク(日本)」などの科目履修をとおして、実際に自身と異なる背景をもつ人々と関わりながら多文化共生を実践することの意義を学んでいきましょう。

他のプログラムとの関係

多文化共生は、さまざまなプログラムと関わり合っています。

〔社会領域〕では、社会学、国際関係・政治学、経済学、文化人類学、

〔人文領域〕では、心理学、コミュニケーション学、言語学、

〔自然領域〕では、情報科学などと組み合わせることで、より包括的な学びが可能になります。

どのプログラムをとっても、多文化共生社会の実現とは無縁ではありません。

留学・教職その他

将来、教員を目指す人は、文化、宗教、ジェンダー、障がいなど、さまざまな背景をもつ子どもたちと向き合うことになります。多文化共生プログラムをマイナーとして履修することで、教育現場で求められる幅広い視野や理解を養いましょう。

また、多文化共生を深く学びたい人には留学がおすすめです。文化的背景の異なる人々とのコミュニケーションを通じて、自己理解や他者理解を深め、大きく成長することができます。在学中に、短期・長期を問わず、積極的に留学プログラムに挑戦してみましょう。

学生へのメッセージ

多文化共生は、人の移動が活発化し価値観の多様化が進む流動性の激しい現代社会において、個々人のウェルビーイングが守られるように、現実と折り合いをつけながら公正な社会を目指す概念です。グローバリゼーションの進展のなかで、国連やユネスコが提唱する「持続可能な社会」の実現に向けても、重要な鍵となります。多文化共生プログラムでは、リベラルアーツ学群の多様な科目を多面的かつ効果的に学ぶことで、自らの視野を広げるとともに、他者や社会に貢献できる力を養うことができます。

多文化共生プログラム

1 海外にルーツをもつ人との共生について学ぶ履修モデル あるいは、「多文化共生プログラム」メジャーの履修モデル

近年、海外からの労働者や留学生の受け入れ拡大に伴い、海外にルーツを持つ人々が日本社会において急増しています。しかし、日本政府は公式には「移民」の受け入れを認めていません。この現状は、何を意味しているのでしょうか。

この履修モデルでは、まず国際移動の歴史を学び、言語・文化・宗教など多様な背景をもつ人々が共生する社会のあり方について探究していきます。

あわせて、日本語での情報が得にくい人々への情報発信の方法、偏見や差別、コミュニケーションにおける課題、日常生活と宗教の関係性、さらには多様な文化的背景をもつ家庭や子どもの教育にかかわる社会問題についても理解を深めていきます。

特に、文化・宗教的差異からくる偏見や差別をはじめ、言語的差異がもたらす情報格差や情報アクセスのあり方、そして社会の構造がもたらす経済的、教育的格差の課題を批判的に考えていきます。

さらには、国際労働者や海外にルーツを持つ人々の受け入れに関わるさまざまな法的制度や政策を学修し、法律の壁に起因するさまざまな困難や課題の根本を問い直していきます。

そして、異なる背景を持つ一人ひとりの声がとどく、公正な社会を築くにはどうすればよいかを学んでいきます。

1年次には、実践基礎科目の「地域サービスラーニング」の中で、多文化共生に関わる科目を積極的に履修することをお勧めします。

多文化共生プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
概念の理解				◎	多文化社会論	2	◎	多文化共生とコミュニケーション	2			
				○	多文化共生の人類学	2						
					人間開発論	2						
				○	比較社会学A	2						
					ナショナリズムとエスニシティ	2						
多様性への理解	○	多文化共生とやさしい日本語	2	○	地域社会学A	2		日中交流史	2			
		宗教学概論	2		障害者(児)心理学	2	○	日韓交流史	2			
	○	日本の宗教・世界の宗教	2		家族社会学	2						
		生涯発達心理学	2		ジェンダーの社会学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					宗教とジェンダー	2						
法とグローバル化				○	地球市民社会論	2	○	移民法	2			
					科学・技術・社会A	2		難民法	2			
					環境と地域	2		国際人権法	2			
実践・演習					ネゴシエーション	2		対人援助コミュニケーション	2			
					多言語交流演習	2	○	年少者日本語教育	2			
							○	国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※[]内は単位数

実践基礎科目

・地域サービスラーニング(多文化共生)[2]

多文化共生プログラム

マイナー履修モデル

多文化共生マイナーの履修モデルは、メジャーを学びながら、民族・ジェンダー・障がいなど多様な文化的背景をもつ人々への理解を深めるために、どの科目を履修すればよいかを示します。

この履修モデルでは、国際移動の歴史を学び、言語・文化・宗教など多様な背景をもつ人々どうしが共生する社会とはどのようなべきかについて探究します。

また、日本語での情報が得にくい人々への情報発信のあり方、偏見・差別やコミュニケーションの課題、日常生活と宗教の関係性、多様な文化的背景をもつ家庭や子どもの教育に関わる社会問題について理解を深めます。

さらに、国際労働者や海外にルーツを持つ人々の受け入れに関わるさまざまな法的制度や政策を学修し、法律の壁に起因する多様な困難や課題の根本を問い直します。

そして、異なる背景を持つ一人ひとりやその家族が日本で直面する生活上の困難とその支援方法、彼らが活躍できる公正な社会を築くためにはどうすればよいかを考えていきます。

1年次には、実践基礎科目の「地域サービスラーニング」の多文化共生に関わる科目を積極的に履修することを推奨します。

多文化共生プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
概念の理解				○	多文化社会論	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
				○	多文化共生の人類学	2						
					人間開発論	2						
				○	比較社会学A	2						
					ナショナリズムとエスニシティ	2						
多様性への理解		多文化共生とやさしい日本語	2	○	地域社会学A	2		日中交流史	2			
		宗教学概論	2		障害者(児)心理学	2	○	日韓交流史	2			
	○	日本の宗教・世界の宗教	2		家族社会学	2						
		生涯発達心理学	2		ジェンダーの社会学	2						
					ジェンダーの人類学	2						
					宗教とジェンダー	2						
法とグローバル環境				○	地球市民社会論	2	○	移民法	2			
					科学・技術・社会A	2		難民法	2			
					環境と地域	2		国際人権法	2			
実践・演習					ネゴシエーション	2	○	対人援助コミュニケーション	2			
					多言語交流演習	2		年少者日本語教育	2			
								国際協力フィールドワーク(日本)	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

実践基礎科目

・地域サービスラーニング(多文化共生)〔2〕